

# 我が校の強み弱み分析・評価シート

## ○調査目的

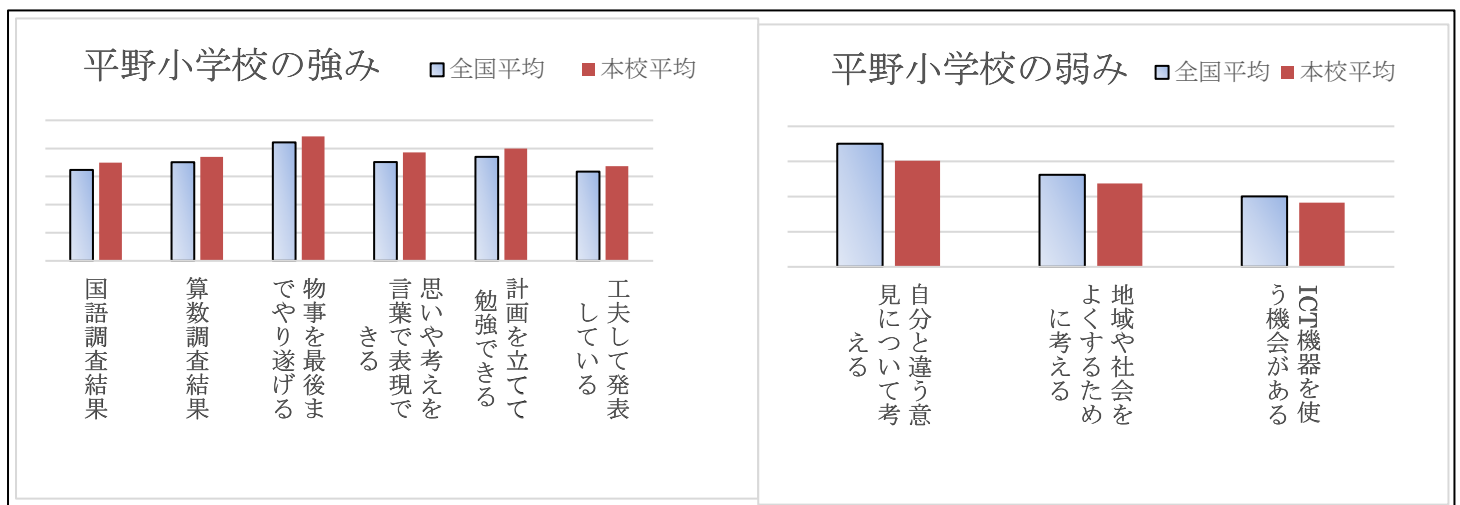
- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 【結果について】

### 《結果の概要と本校の強み・弱み》

- 全国の平均正答率と比較してみると、国語、算数ともに全国平均を大きく上回っており、概ね結果は良好といえる。
- 自分で思っていることを言葉で表したり、聞き手にうまく伝わるよう、工夫して発表したりできる児童の比率が高い。
- 自分で決めたことをやり遂げたり、計画を立てて勉強したりできる児童の比率が高い。
- 自分にはよいところがあると感じている子どもの割合が高い。
- 自分と違う意見について考えることを苦手とする児童の比率が高い。
- 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童の比率がやや低い。
- 5年生までに ICT を活用する機会が少なかったり、学習に役立つと思っていなかったりする傾向が見られる。

◇強み・弱みレーダーチャート◇ ※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率・回答率、と本校平均正答率・のポイント差に基づいて作成しました。

## 【指導の充実に向けて】

- 学校教育目標「かがやけ」、めざす子ども像「人と関わり学べ！遊べ！地域にときめけ！」を念頭に置いた教育活動等を継続し、学習意欲を高めることができるよう毎時間「めあて」を提示すること。確かな力を身につけるための「ふりかえり」の時間を、授業の中で確保する。
- 子供たちが、自ら進んで課題を解決し自分の考えを発表できる授業づくりをめざし、授業改善を推進する。
- 学校で統一した指導を行うために、基本に戻り、学校のきまりを「見える化」して全学級で足並みをそろえて指導をする。そのことで、子供たちにとって安心して学ぶことができる学校づくりをめざす。
- iPad 端末導入を機に、授業における ICT の活用場面を増やし、地域人材、教材を有効に活用していく。さらに適切な ICT 機器の使用方法についての授業を行い、メリット・デメリットについて児童が考え、安全に正しく使用できるようにしていく。

## 本校の「ICT 機器を使う機会がある」が全国平均を下回ったことを受けて

今年度より4年生以上にiPad端末が配備されたことを受け、日ごろから学習の中で主にiPad端末を主に活用するようになってきました。

今回情報モラル教育の一つとして、

「これまでのiPad端末の使い方を振り返り、適切な使い方について考える」学習を行いました。その中で児童の感想にでてきたことを紹介します。

質問 「iPad 端末を使用することで、どのようなことに良さを感じていますか」

- ・授業や係活動、委員会活動でメモをとりやすくなった。
- ・調べ学習に役立つようになった。  
例えば、スクリーンショットなどを使い、歴史の人物のまとめなどがしやすくなった。
- ・先生に個別で質問するのに時間がかかっていたが、自分で調べられるようになったので学習に役立っている。
- ・画面上で先生が学習の記録を見ているので、教えてほしいときに教えてもらえることが増えた。
- ・わからない言葉や漢字など、気になったことをすぐに調べられ、その時に解決できる。
- ・文章校正の際、消しゴムを使って書き直すまでの時間が大幅に短縮された。書くより楽に感じる。
- ・手を挙げて発表することを苦手と感じているので、入力したものをみんなで共有できるのはよい。
- ・まとめたことをクラスの友達に簡単に共有できることが良い。
- ・えんぴつで文字を書くよりも、タイピングで入力する方が速く、すぐに自分の考えを書ける。
- ・iPadにデータとして記録しておくことで、学習の足あとが残していける。

質問 「iPad 端末を使用するときの注意点はどんなことがありますか」

- ・インターネット検索をする際は、学習に関係することであるかよく考える。
- ・人のiPadを勝手に触れないようにする。
- ・写真や動画を撮るときは、関係ないものが映らないように注意する。
- ・人が嫌がることや人を傷つけるような使い方は絶対しないようにする。

これまで、調べ学習のためのツールの数に限りがあったり、先生の助言や指導を得るまでの待ち時間があったりしたことが、大幅に改善されたことがわかります。また従来の授業での考えや意見の共有の仕方に幅ができ、発表すること以外でもたくさんの人との交流ができるようになりました。まだまだ活用は高学年中心ではありますが、今回の全国学力学習状況調査の結果を受け、本校の弱みの部分を改善し、地域との関わりを教育課程に盛り込みながら、平野の良さを伸ばしていく教育に取り組んでまいります。